

東京で 新技術説明会を 開催

京都工芸繊維大学は独立行政法人科学技術振興機構(JST)と共同で、8月8日(金)にJST東京本部別館ホール(東京・市ヶ谷)で「京都工芸繊維大学新技術説明会」を開催する。JSTは、2004年から大学や高等専門学校、公的研究機関等と連携して、各機関から生まれた研究成果(特許等)を実用化するため、企業とのマッチングの場として「新技術説明会」を開催している。京都工芸繊維大学は、関西の他大学とともに大阪で合同新技術説明会を開催したことはあるが、東京で単独開催するのは今回が初めて。また、今回は関西TLO株式会社、社が共催機関として参画し、マッチングや技術移転を担当する。

「新技術説明会」では、研究者が自ら企業関係者に技術を説明し、ポスターセッションで質問に答え、さらに個別相談会も設けている。今回は計測、デバイス関連技術の7つの課題について発表、その

中には4件の未公開特許技術が含まれている。また、平成26年度「科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞研究部門」を受賞した栗辻安浩准教授が受賞研究を応用した特許技術を発表する。講演タイトルと発表者は以下の通り。

- 1、「高速物体の3次元動画画像計測技術」(電子システム工学部門 栗辻安浩准教授)
- 2、「ビームスクイントのない偏波可変ビーム走査アンテナ」(電子システム工学部門 上田哲也准教授)
- 3、「二段階のダウンコンバータによる位相変調インパルス無線受信装置」(電子システム工学部門 大柴小枝子教授)
- 4、「微粒子によるマイクロパターン」(電子システム工学部門 高橋和生准教授)
- 5、「生体組織の動きを抽出して難病診断支援を。」(情報工学部門 福澤理行准教授)
- 6、「きれいな端面をもつ結晶の成長方法、発光トランジスタの高輝度発光駆動法」(高分子機能工学部門 山雄健史准教授)
- 7、「有機結晶膜を用いた高変換効率太陽電池技術」(高分子機能工学部門 堀田収教授)

参加申し込みはJSTのHP <http://jstshingijp/index.php> から。問い合わせ先はJST産学連携展開部・産学連携支援担当、電話0120-679-005。大学の問い合わせ先は研究推進課産学連携推進室 知的財産係、電話075-724-7039。



電子システム工学部門
栗辻 安浩 准教授

綾部市で技術シーズ交流会

京都工芸繊維大学は、綾部市城山町の日東公進株式会社内に「綾部地域連携室」を開設し、綾部市と包括協定を結んだのに合わせて、6月24日に「技術シーズ交流会」(会場II 綾部市I・Tビル)を開催した。産学公連携によって北京地域のものづくり中小企業のビジネス拡大を図るために公益

財団法人京都産業21(北部支援センター)などが主催した。京都工芸繊維大学からは6人の研究者が参加、7つの技術シーズを発表して地元企業との技術交流を図った。この交流会は京都次世代ものづくり産業創出プロジェクト・北京都ものづくりパーク大学連携推進事業として実施したもので、今後も定期的開催される予定。今回、技術シーズを発表した大学の研究者は、物質工学部門の角野広平教授、塩見治久准教授、応用生物学部門の井沢真吾准教授、機械システム工学部門の飯塚高志准教授、江頭快准教授、増田新准教授の6人。



会員企業の紹介

株式会社ナンゴ

【代表取締役】南郷 真
 【創業】1973年(昭和48年)
 【本社所在地】〒611-0022 京都府宇治市白川
 川上り谷80番地36
 【TEL】0774-28-3141
 【資本金】1,000万円
 【従業員数】15名
 【HP】http://www.nango-kyoto.co.jp

We Improve!!
 株式会社 ナンゴ

『中途半端ネット』(インターネットの受注サイト)を運営する株式会社ナンゴの本業は、一品もの金属機械加工やものづくりを効率化する各種治具・省力化機械の製作。1973年に大手自動車メーカーの一次下請けとして創業、エンジン組み立てラインの治具や金型周辺機器などを手掛けてきた。『中途半端ネット』は、通常では端数にしかならないロットや、どこに頼んだらよいのか分からないような試作などを受注するために2012年に立ち上げた。製圧、溶接、放電加



代表取締役 南郷 真氏



株式会社ナンゴ本社 (宇治市)

工、樹脂加工など自社では対応できない案件も、長年培ってきた協力会社のネットワークを活用して対応し、2013年には京都府の『元気印中小企業』の認定も受けている。

南郷真社長は、金融機関に17年間勤めていたが、義父が創業した会社を引き継ぐために39歳の時に入社



30社を超えるまでになった。『京都試作ネット』では、京都工芸繊維大学の学部生向け教育プログラム「川下り方式インターンシップ」による産学連携ものづくり実践教育」を2012〜2013年に担当し、大学教員との打ち合わせや試作ネット会員企業とのインターンシップ受け入れ先の調整などを行った。「その縁もあって3Dステレオグラムのデザイン開発で大学と共同研究を行い、産学連携を実際に体験することができた」と(同)と前向きに話す。



3Dステレオグラム

3Dステレオグラムは、金属表面に同社独自の切削加工技術で凹凸を付けて「ステレオグラム」を表現している。「ステレオグラム」とは、そのままではただの模様には見えませんが、目の焦点を意図的にずらすと画像が立体的に浮かび上

がってくる技法で、両眼視差を利用して画像を立体として認識させている。これまでは印刷物として平面にしか描写できなかったが、ナンゴは立体造形物として表現することに初めて成功した。2011年にDMG森精機の『第8回切削加工ドリムコンテスト』の金型・造形部門で金賞を受賞し、2012年には特許も取得している。「当社の切削技術が評価されたことは大変うれしいが、収益を上げる事業に育てるのが現在の目標。3Dなので型にしてチヨコレートなど食品分野に展開できる。建材分野では室内装飾にも使えるし、革製品に転写してブランドの偽造防止にも応用できる。これからも大学と協力しているいろいろなアイデアを具体化していきたい」と(同)と夢を膨らませる。

京都工芸繊維大学 創造連携センター 事業協力会会報 No.35 2014.7

京都工芸繊維大学 創造連携センター
 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町
 TEL: 075-724-7933 FAX: 075-724-7930
 URL http://www.liaison.kit.ac.jp

